

令和4年度  
年間業務報告書

株式会社南紀白浜エアポート

2023年4月

空港運営4年目となる当期も事業計画（大枠では①空港活性化、②維持管理、③安全・保安の3項目に関する計画）に沿って以下のとおり事業を実施しました。

#### ①空港活性化に関する計画

- ・目標旅客数は17.8万人でしたが、予想以上の23.1万人の利用があり、2月には将来の増便を目指し、実証実験として一日4往復8便で運航しました。
- ・航空需要を高めるため、数十社に対してワーケーション体験・視察の受入を行い誘致活動を実施しました。また、ワーケーションで来訪した企業に対して、和歌山県企業立地課、情報政策課や白浜町・田辺市等と連携し、地域課題やサテライトオフィスなどを紹介して、企業誘致活動を実施しました。
- ・ワーケーションや顔認証視察、ビジネス出張や観光などで来訪した企業・個人に対して着地型旅行事業として宿泊・交通・飲食・体験等で約800件を手配しました。
- ・地元からの航空需要の喚起策として、34団体約1,500名に対して空港バックヤードツアーを開催し、空港を身近に感じ、より親しんでもらう機会を設け潜在需要を創出しました。
- ・新幹線、関空利用、長距離バスでの東京－紀南の移動需要を白浜線を使ったルートへの転換を促すため、JR西日本や熊野御坊南海バス、和歌山県や新宮市職員とともに、JR新宮駅で啓発活動を実施しました。
- ・エアライン誘致の強化策として最重要事項はJAL定期便の維持と拡大で、乗継も含めた新規需要創出および拡大に向け、乗継利用促進協議会に参加・意見交換しJAL路線事業本部と継続的に協議しました。スプリングジャパンに対しては、空港内での映画撮影時に南紀白浜の魅力についてPRを実施しました。毎年チャーター便運航しているFDAには誘致営業を継続し、和歌山県観光部局には誘致インセンティブを依頼。8月には名古屋小牧空港から日帰り運航、10月から12月までに仙台・福島・山形・北九州・新潟などで地方間チャーター便が実現しました。遊覧飛行についても地方間チャーター便と合わせて機材利用が可能な場合での検討、ビジネスジェット便では富裕層向けサービス拡充による受入整備の一環として、リムジンのエプロン乗り入れサービスを実施しました。スカイトレック社と富裕層向けプライベートジェット旅行プランの造成及びマリOTTホテルなどとも連携し協議を実施しました。
- ・空港および地域における利便性を向上させるため、宿泊・交通・飲食・体験の横断的におもてなしの拡充をしました。ビジネス客受入強化に向けて、白浜町内ホテルと新たに1名1室1万円前後の宿泊プランを、その他、町内でのコワーキングスペース利用プランを造成しました。白浜ビーチクリーンアップを実施して海開きに向けた準備と地域

関係者との連携の強化に努め、南紀白浜ビジョン会議を12回開催し地域関係者と地域ビジョンの共有を実施しました。和歌山県紀南エリアの広域12市町村+3地域DMOと合意形成の仕組みや観光データPDCAの実践ができていると観光庁より確認され、正式な地域連携DMOとして認定を獲得しております。

- ・新ターミナルビル開業に向け、恒常的な駐車場不足であることから、地域の拠点として非航空客も誘致できるよう駐車場を拡張しました。

## ②維持管理に関する計画

- ・日常の維持管理については、日常点検、巡回点検、緊急点検を適切に実施し、検知された損傷をSOCOCA（巡回点検支援システム）に点検毎に随時記録し、補修、修繕が必要であれば緊急修繕を実施しました。更に、要補修か経過観察かの判断に迷う場合は、技術専門家に相談及び対応工法を検討後、必要に応じ実施しました。
- ・更新工事については、和歌山県空港部局及び工事部局と工事状況にあわせ、随時協議を実施し、速やかな工事手続きに入り実施しました。
- ・新技術の導入推進（空港DXの推進）については、長距離3D-LiDARを活用した滑走路上の異物検知の実証実験、ローカル5Gを活用した「MR空港体験」の実証実験を実施しました。

## ③安全・保安に関する計画

- ・セーフティ・セキュリティの両面において安全確保に努め、制限区域内の死傷者ゼロ、航空機損傷事故ゼロ、空港ビル・クリーンエリアへの不法侵入事案発生件数ゼロでした。
- ・空港スタッフ一体となった安全・保安意識の増強に努め、空港委員会（セーフティ）や空港保安委員会（セキュリティ）を適時実施しました。
- ・3層の視点からのモニタリングにより、安全保安に関する業務品質の維持・改善に努めました。3層とは、日常業務管理、内部モニタリング、外部有識者を加えた外部モニタリングで継続的に実施し、空港の安全安心を継続的に担保しています。
- ・教育・訓練については、航空局が主管する空港保安防災教育訓練センターの訓練に空港消防隊員が参加し、訓練終了後に波及教育を実施し、訓練で習得したスキル等を全隊員が共有・習得するよう努めました。
- ・リスク管理会議を毎月1回開催し、ハザードを見極め、リスク評価し、改善・予防措置を実行しました。

以上